

神奈川県観光審議会会議記録

日時：平成24年11月21日（木）

10時00分から12時00分

場所：横浜市開港記念会館

1．開会

2．商工労働局産業部長あいさつ

3．議事

（金安委員）

今日の議題は一つで、観光振興計画の改定であります。

まず、観光振興計画素案について、事務局から説明をお願いいたします。

<事務局説明>

今回ご議論いただいた内容を反映して、12月の議会にこのような改定を行いますという報告をして、来年再度審議のうえ、答申という流れになっております。

まずは事務局の改定素案について、何かご意見はありますか。

（矢口委員）

まずは9 pにそれぞれ重点プロジェクトということで、何度も訪れたいくなる神奈川、外国人を引きつける神奈川、観光で元気になる神奈川など大きな取組みがあるが、そのあとに続くサブタイトルのようなものを、国内の魅力発信とか、住民がいきいきとか、ターゲットというか、誰に向けてなのかを分かるようにしてもよいのではないかと思った。

次に25 p、3番目の観光消費額の目標額について、経済状況を考えると消費額、宿泊額がそんなに増えるのかと疑問がある。神奈川県は日帰り観光客が多いので、日帰りの消費額をもう少しあげてはどうか。日帰りと宿泊の消費額を同じ10%とする必要はないと思う。

（高橋委員）

24 pの達成目標の設定、全ての項目で右肩上がり、特に満足度は3年後には100%と大変結構な目標だとは思いますが、現実とはマッチングしないのではないかと感じている。達成には相当の努力が必要ではないかと感じている。修正されたほうがよいと思う。

（事務局）

ご指摘をいただいた満足度について、これまでも色々な議論がありましたが、最終的には100%を目指したい。

（羽田委員）

満足度について、「大いに満足」と「どちらかといえば満足」をあわせて現状95%ということ

だが、これは注書きをしておいて、神奈川県としては「大いに満足」を上げていくと考えたほうが良いのではないか。

(坂本委員)

達成目標の「何度も訪れたいくなる神奈川」について、再来訪率は重要な項目だとは思いますが、10回以上の再来訪というのはかなり多く、それを指標にするのはよろしいとは思いますが、新規のお客様が、まず最初に来られるきっかけがあって、それから再来訪があるのであり、そういう方の指標も必要ではないか。

また、県を訪れる観光客の方は近隣の方が多ということだが、その方達にどういう風に魅力を伝えていくか、施策として情報発信という部分が重要なのではないか。すでに神奈川に来ている人たちに、こういうものもあったのかと、再発見させるような情報提供が大事なのではないか。

新規の方とリピーターの方に、今ある魅力あるものをどういう風に情報発信していくかが重要ではないかと思った。

(辻委員)

外国人に関する目標値について、宿泊者数を指標とされるということだが、外国人旅行者の場合、横浜や鎌倉よりは東京に泊まる人が圧倒的に多く、神奈川県は有利な面を持っていて、そのあたりを補足できないのは残念である。観光庁の消費動向調査のなかで訪問率を出しているの、そちらの2011年分をベースにされては考えてはいかがかと思う。

外国人に関して、「武家の古都・かまくら」が重点プロジェクトに挙げられているが、これが施策の面にどのように落とし込まれているのか良く分からない。鎌倉というのはすでに外国人の定番の訪問先になっているが、世界遺産になると今までと違う鎌倉ということを出していけるのかなと思う。そのような情報発信やプロモーションをやっていかれるといいのではないかと思うが、その点が施策のどこに落とし込まれているのか分からなかった。

(事務局)

ご質問があった鎌倉の件については、世界遺産鎌倉の推進事業費として事業立てをしております。

(辻委員)

外国人の誘客促進のところには出てきていないが、重点プロジェクトとして挙げられているので、何かそのようなとりくみがあるのかと思った。

(金野委員)

情報提供もさることながら、インフラの整備も問題である。最近スマートフォンが普及して、Wi-Fi環境の整備が求められている。事前の情報収集より、現地で情報を入手するということが増えてきており、特に海外の方からすると日本はWi-Fi環境が非常にプアだと言われる。われわれも通信事業者と一緒に整備に努めているが、規制などからなかなか進まない現状であり、中央政府、地方自治体の協力をいただきたい。情報のインフラ整備の視点も課題に入れていただきたい。

(国松委員)

施策事業として教育旅行の誘致促進と海上交通を活用した観光について挙げられているが、どんなことを考えているのか。

(事務局)

教育旅行の誘致促進について、県観光協会が各地へ出かけて行って教育旅行の誘致促進の取り組みを行っています。また、県西地方で教育旅行誘致の協議会を設置しています。横浜市、川崎市、三浦市では協力して教育旅行の誘致に取り組んでいます。

海上交通を活用した観光の推進については、昨年度まで雇用基金を活用して相模湾、東京湾における新たな観光資源の開発事業を3年間実施して、非常に好評を得て終わったところです。現在は地元の商工会議所等の連携で、相模湾を活用したクルージング事業に取り組んでいます。

県の取り組みとしては水の観光の推進に取り組んでおりますので、海も水の一部ということでそのような方向で取り組んでいます。

(国松委員)

海上交通を活用した観光について、あまりお金をかける事業は続かないと思っている。既存のものを活かす施策が良いのではないか。

新たな観光の核づくりについて、総務政策常任委員会でも話題になったが、非常にプアな政策であり、魅力がないという意見が強い。考え方はいいと思うが、実際手を挙げて認定されるまでの手続きや、選定後、県が何をしてくれるのか、イメージがなく応募するところがあまりないのではないか。この件については常任委員会で議論したい。

鎌倉の世界遺産登録について提案したいと思うが、私の地元の江ノ島は三大弁財天のひとつだが、調べたところ広島県の宮島では世界遺産に登録後、広島県と廿日市市がモンサンミッシェルとの関連でフランスからの誘客を積極的にすすめており、鎌倉が世界遺産になったときにはポイントを絞ってやっていくことを提案させていただきたい。

県の観光予算は削減額が大きく、こんなに提案して何ができるのかという気がする。その中で県としてやっていただきたいのは、箱根、横浜などには観光を主体に生活している方が大勢おり、これらのコーディネーター役が県の役割ではないのかと思っている。特に横浜、川崎、相模原の政令三市からは多額の税金が納められており、これらについての施策を考えて欲しい。

最後にフィルムコミッションについて、藤沢市から言われているのだが、市町村が直接交渉するのではなく、県が中心になって動いていただければ有効なのではないかということだ。藤沢市は宿泊型観光というのはあり得なく、横浜や箱根に泊まって一時的に江ノ島に立ち寄るというケースが多く、そういう点からも県としての役割が別のところにあるのではないか。

(芳賀委員)

神奈川の観光の現状分析というところで、外国の方の来訪目的がはっきり書いてあるのに対し、国内の方の来訪目的がないので、国内も載せていただいたほうがいいと思う。

旅行者の体験型・学習型の観光ニーズが一層高まっているという部分で、その事実がどこにあるのかをしっかりと明示していただいたほうがいいと思う。

情報通信手段の活用というところで、旅行を選ぶ手段としてインターネットを利用することが多いと思うが、情報発信を県単独でやっても見てもらえるかどうかは疑問があるので、旅行会社

や事業者の方たちを使ってはどうか。

(羽田委員)

県の観光振興条例には県や市町村の役割等が書かれているとおもいますが、県が一番やらなければいけないことは県境を越えた、または県内の広域的な連携ではないか。そういう意味では、計画の実施体制について、県の役割については、条例に即して書き込んだほうが良いのではないか。

表現のところで感じたところとして、9p「何度も訪れたいくなる神奈川」の下に「新たな観光の核づくり」などとあるが、書き方が10pとあっていないので統一したほうが良い。10pに関して、「地域の魅力向上や情報発信」とあるが、9pのほうが「地域の観光魅力向上」となっているので、そろえられたほうがよい。

重点プロジェクトの「地域の観光魅力向上と情報発信」と「地域のにぎわいづくり」はレベルが合わないのではないか。「地域の観光魅力の向上」と「旅行商品化の促進」としっかり位置づけされたほうが重点プロジェクトとしてふさわしいのではないか。

11pの外国人観光客の誘客は大きな話であるので、教育旅行の誘致であるとか、もう少し具体的な施策、プロジェクトとして打ち出されたほうがよいのではないか。

観光まちづくり人材育成とあるが、まず観光まちづくりの推進があり、そのための人材育成であると思うので、観光まちづくりの推進と人材育成という話ではないか。

観光関連産業の活性化について、観光産業事業者は農業、漁業、製造業がこの中からは読み取れない。今後の方向性として広く農業、漁業、製造業もとらえた書き方がよいのではないか。

商店街観光ツアーの推進について、書き方として商店街を核とした地域の魅力作りが先にきて、そのひとつとして商店街観光ツアーがあるので、地域の魅力作りを前にした方がよい。

14pの小柱 と は重点プロジェクトの順番でいくと、逆でないと順番が合わない。にぎわい拠点の「整備」とあるが「づくり」に文言を統一されたほうがよいのではないか。「商店街観光の推進」も統一したほうがよい。

23pのコンベンションについて、横浜もコンベンションよりはMICEに舵を切っており、横浜のMICEのポテンシャルは高いと思うので、コンベンションではなくMICEとしたほうがよい。

(浦辺委員)

年号が平成だったり西暦だったりするので、統一したほうが良い。

2pの観光客数と4pの外国人訪問者数と、見たところ、全体の中で外国人観光客の誘致を重点プロジェクトとしているので、比較できるように表示したほうがよい。

(石井委員)

こういった行政の計画では、重点プロジェクトと書いてあるところが何をやりたいのかが最大の関心事である。できればもう少し具体的に書いていただければわかりやすい。

災害の対策の関係、大変詳しく書かれており、頼もしいと感じた。まさに行政が担うべきところではないか。

ニューツーリズムについての記述も前面に出していただけるといいのではないか。

(辻委員)

先ほど金野さんからWi-Fiの問題が提起されたが、私も非常に重要と思っている。観光案内所でのアンケートでも、日本で不便に思ったこととしてWi-Fiを使えないことが非常に多く挙げられている。神奈川県が直接やることではないが、課題のみならず、21pの外国人の受け入れ態勢整備の施策体系の項目のひとつとして入れたほうがいいのではないか。お金をかけてやるということではなく、市町村のファシリテーターとしての役割が重要なのではないか。

（金安委員）

観光というのはわれわれが生きていく中で、物語や思い出、記憶につながるものではないかと思える。個人個人の物語、歩みと連動するものであり、そういう物語性をうかがえる、またはそういうことを県が支援できる計画であつたらいいと思う。

（事務局）

今日いただいた意見を反映させて、あらためて素案を作成して皆さんにお送りし、それを見ていただいた上でパブリックコメント等を実施する。

以上